

# ニジェール支所便り

## 7月号

【編集長】松本支所長 【編集担当】保久企画調査員

Tel: (227) 2073 5569 Fax: (227) 2073 2985 E-mail: ni\_oso\_rep@jica.go.jp

### プロジェクト・専門家等の活動の進捗状況紹介

■■■サヘル地域における貯水池の有効活用と自律的コミュニティ開発プロジェクト(VRACS)■■■

<http://www.jica.go.jp/project/niger/001/index.html>

【ニアモデルサイトにおける FFS】

#### Tchingal Bangou サイト

Tchingal Bangou サイトでは、雨季の学習テーマ(FFS で取り扱う対象作物)として、ピーマン栽培に取り組むことに決めました。雨季の野菜栽培は病害対策などが難しい点もありますが、収穫に繋がれば雨季は乾季に比べて野菜の市場価格が高いため、収入の向上が期待できます。エクスペリメント(FFS で取り組む課題の内容)は、ピーマン 4 品種(Yolo Wonder, Nikita F1, Golia F1, Fulyssse F1)を、同じ栽培方法により比較する方法で行います。普及員と FFS グループは雨季のピーマン栽培の経験と知識が浅いため、ピーマンの品種選択は普及・技術移転局職員の支援により行われました。5 月 14 日には、苗畑の設置と播種が行われ、その後は苗畑を観察する AESA(Agro Eco-system Analysis)が行われています。5 月からの降雨の始まりに伴い、農業を主生業とする FFS メンバーは個人の畑の農作業で多忙な時期となっています。そこで、FFS グループは、セッションの時間を 9 時から 11 時の 2 時間に集中して行うことに決めました。これは、時間が取れずにセッションに参加できないことによる離脱メンバーを生まないための工夫でもあります。

Tchingal Bangou はモデルサイトであることから、日本人専門家も普及・技術移転局職員と共に毎週のモニタリングを行っていますが、FFS グループは自分たちの決めた通りに 2 時間のセッションを行っており、集合時間やタイムテーブルを順守し、集中したセッション運営が行われています。他の一部 FFS サイトでは、集合時間やタイムテーブルが守られていない、AESA に時間をかけすぎてしまい、メンバーが集中力を失っているなどの報告もあり、Tchingal Bangou はセッション運営が上手に行われているという点では、FFS のモデルとなりつつあります。



ピーマンの苗畑作成 (Tchingal Bangou)

### Yantala Corniche サイト

Yantala Corniche では、雨季の FFS の学習テーマに養鶏を検討していましたが、養鶏は収入創出活動として別途行うこととし、FFS では Tchingal Bangou と同じくピーマン栽培を学習テーマとすることを 5 月 11 日に決めました。Yantala Corniche では、サラダ菜の栽培を得意しており、ピーマンは一部の組合員が僅かに栽培している程度です。そのためピーマン栽培の規模は小さく、経験、知識は浅く、実が大きくなるなどの問題を抱えています。加えて、Yantala Corniche では、塩害により野菜の生育に支障を来していることが問題となっていることから、エクスペリメントは、Tchingal Bangou とは異なり、品種は Yolo Wonder という 1 品種のみを選択し、4 つの異なる栽培方法を比較し、どの栽培方法が最も塩害に強いピーマンの栽培方法であるかを探ることとなりました。4 つの栽培方法は、1)ミレットの籾殻を撒くことにより塩分を取り除く方法、2)水を多く遣ることにより塩分を取り除く方法、3)ビニールを敷き、塩害を受けていない土地の土を入れて栽培する方法、4)塩害の出ている土をまず除去し、塩害を受けていない土地の土を入れて栽培する方法です。5 月 18 日には、FFS プロポーザル作成とともに、ホストファームにおける圃場設定、苗畑の設置、播種が行われました。今後は、苗畑の観察、移植などの作業を行っていくこととなります。(小村専門家)



FFS プロポーザル作成を支援する普及局職員

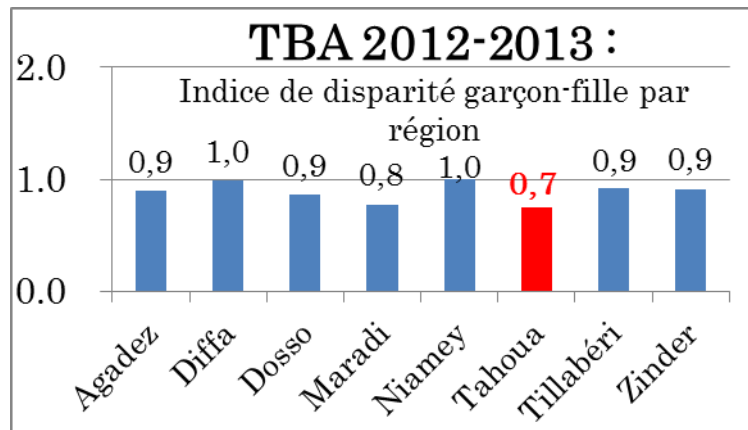
## ■■みんなの学校：住民参加を通じた教育開発プロジェクト(EPT III)■■■

### 【タウア州教育フォーラム開催】

2月から準備を進めていたタウア州教育フォーラムが6月11日にタウア州マダウア市で開催されました。タウア州教育フォーラムとは、学校運営委員会/学校運営委員会連合と地方行政による、地域の教育改善に取り組む活動です。フォーラムでは毎回テーマを掲げ、各学校運営委員会/連合はそのテーマに沿った活動を進めるとともに、行政側はそれを支援しています。今フェーズから学校運営委員会と地方行政との連携を強化し、協働して持続性のある活動を目指しています。フォーラムにはタウア州知事のほか、州内の県知事、州内の各市長、CGDES(学校運営委員会)連合代表、州・県教育事務所長、州・県CGDES監督官、視学官、教員組合代表、他ドナー等、200名を超える人々が集まり、今回のテーマである女子教育(就学促進、男女格差是正)について協議が進められました。タウア州では以前にも女子教育をテーマにフォーラムを実施したことがありますが、フォーラムのあと、一旦成果が現れたものの持続せず、2012-2013年度においては全国8州の中で、男女格差が最も開いている地域となっています(男子1.0に対して女子0.7。図1参照)。

フォーラムではこの様な現状を踏まえ、参加者がCGDES連合、市長等のグループに分かれて協議を進め、最終的に、状況改善のため行動を起こすこと等を決議するとともに、それぞれの立場からの具体的な活動のコミットメント及び各アクターへの提言を行いました。プロジェクトが今フェーズから強化している地方行政とCGDES連合との連携においても、市長たちからCGDES連合への予算引上げの検討や、各コミットメントを継続するためのコミュン評議会の設置、女子教育の啓発、CGDES連合総会への出席などがコミットされました。また、視学官など教育行政側からは教員確保に関するなどが、また、CGDES連合からはフォーラムの内容を各CGDESに伝え、女子教育の啓発に努めることなどが約束されました。参加者がそれぞれの役割を理解し、活発な協議が進められた今回のフォーラムを通し、成果が発現し、子どもたちが安心して勉強できる環境が継続して守られていくことを願います。(羽田野)

図1 2012-2013年度の総就学率における男女格差





タウア州知事による開会の辞



フォーラムには 200 名を超える人々が参加しました

## カルマハオ技術訓練校へ PC 贈与

職業・技術訓練省管轄のカルマハオ技術訓練校と当支所の付き合いは長く、1990 年の協力隊員派遣から始まっています。残念ながら治安悪化のため、2011 年に協力隊員が退避し、現在、隊員派遣は中止しています。最後の隊員は三浦祐二 OV(21-2 次隊 コンピュータ技術、活動期間 2009-2011 年)です。同 OV が活動中の 2010 年に、同訓練校に対して、当支所で不使用だったデスクトップ型 PC を贈与しています。また、以下の記事の通り、2011 年に京都コンピュータ学院から 31 台のデスクトップ型 PC を寄贈しています。

京都コンピュータ学院 (KCG) の HP より

[http://www.accumu.jp/vol20/kcg365\\_2011/%E8%A5%BF%E3%82%A2%E3%83%95%E3%83%AA%E3%82%AB%E3%81%AE%E3%83%8B%E3%82%B8%E3%82%A7%E3%83%BC%E3%83%AB%E3%81%AB%E3%83%91%E3%82%BD%E3%82%B3%E3%83%B3%E3%82%92%E5%AF%84%E8%B4%88%EF%BC%A9%EF%BC%A4%EF%BC%A3%EF%BC%A5%EF%BC%92%EF%BC%93%E3%83%B5%E5%9B%BD%E7%9B%AE.html](http://www.accumu.jp/vol20/kcg365_2011/%E8%A5%BF%E3%82%A2%E3%83%95%E3%83%AA%E3%82%AB%E3%81%AE%E3%83%8B%E3%82%B8%E3%82%A7%E3%83%BC%E3%83%AB%E3%81%AB%E3%83%91%E3%82%BD%E3%82%B3%E3%83%B3%E3%82%92%E5%AF%84%E8%B4%88%EF%BC%A9%EF%BC%A4%EF%BC%A3%EF%BC%A5%EF%BC%92%EF%BC%93%E3%83%B5%E5%9B%BD%E7%9B%AE.html)

京都コンピュータ学院 (KCG) は 2011 年 3 月と 4 月の 2 回に分け、西アフリカのニジェール共和国に、使用済みパソコン 31 台を贈った。KCG は 海外コンピュータ教育支援活動 (IDCE) の一環として、使用済みパソコンを発展途上国に贈る活動を続けており、今回のニジェールは 23 カ国目となる。パソコンが贈られたのは、ニジェールの首都ニアメにあるカルマハオ技術訓練校。カルマハオ技術訓練校では、日本の青年海外協力隊員の技術指導のもとに、コンピュータ教育が行われている。ニジェール共和国は、一人当たりの年間所得が約 1 ドルで、世界で最も貧しい国の一つといわれている。KCG で使われたコンピュータが海を渡り、そのような国で学生たちの実習に役立つことは大きな意義があるだろう。

当支所スタッフが 2014 年 5 月 2 日に同訓練校を訪れ、日本側から贈与された PC の利用状況を確認しました。当支所から贈与された PC は、OS は XP のままで会計訓練用に、京都コンピュータ学院から贈与された PC は、OS が windows 7 でシステム研修用に利用されていました。





京都コンピュータ学院が贈与した PC は表敬した時  
ちょうど研修に利用されていた



モニターの裏には京都コンピュータ学院贈与のシールが付いていた

このように、日本側が贈与したデスクトップ型 PC は現在も授業に有効に活用されていることから、当支所で不要となったデスクトップ型 PC 9 台を 6 月 17 日に、同技術訓練校に贈与しました。同校長からは、「日本の息の長い支援には大変感謝している。頂いた PC は人材育成に活用したい」とのコメントがありました。また、この贈与に関する記事が同訓練校の HP(<http://fr.kalmharo.com/>)に以下の通り掲載されています。

### DON DE MATÉRIELS INFORMATIQUES DU JICA AU CTK



L'Agence JICA a fait don des matériels informatiques au Centre Technique Kalmharo, dans le cadre de la formation des élèves. Ces matériels sont composés de 9 unités centrales, 10 écrans et un lot des câbles réseau. La cérémonie de réception s'est déroulée en présence du Représentant de JICA au Niger, du Directeur du CTK et de plusieurs responsables de la formation du CTK.

なお、同訓練校の HP は、仏語、英語、日本語(但し、三浦 OV の帰国後日本語の更新はなし)でアクセス可能で、上記の京都コンピュータ学院からの贈与も記事として載っていますのでご参照ください。(保久企画調査員)